デマツイート拡散ユーザーのリツイート頻度分析

プロジェクトマネジメントコース 矢吹研究室 1442014 岩橋瑠伊

1. 背景

Twitter は 2006 年 7 月 15 日に開設された「ツイート」と称される 140 文字以内の短文を投稿し共有するウェブ上の情報サービスである. 国内月間アクティブユーザー数は 4000 万人である [1].

Twitter では日常的なことからニュースまで、様々な発言が飛び交っている。その中に、デマツイートと呼ばれるものが含まれている。デマツイートの例として、熊本地震の発生直後に「熊本で動物園のライオンが逃げた」などというデマツイートがある。このデマツイートを流した神奈川県に住む20歳の会社員の男が、2016年7月20日業務妨害の容疑で逮捕された[2]。

私はデマツイートがリツイートされる原因として、デマをデマと見抜けないユーザー、面白半分でリツイートしているユーザーの2種類がいると考えた.この2種類のユーザーと、それ以外のユーザーにはリツイートする頻度の差があるのではないかと考えた.

2. 目的

デマツイートをリツイートするユーザーと, それ 以外のユーザーのリツイートの頻度を調べる. リ ツイートの頻度でデマツイートをリツイートする ユーザーなのかを判別できるようにする.

3. 手法

以下の手法で研究する.

- TwitterAPI を用いて日本人ユーザー 50 人をランダムサンプリングする.
- TwitterAPI を用いてデマツイートをリツイートしたユーザー 50 人を取得する.
- TwitterAPI を用いて集めたユーザーの最新 100 ツイートに含まれるリツイートの数を調べて, 平均などを計算する.
- 2標本 T 検定を行い、平均に有意差があるのか を確かめる。

4. 想定される成果物

デマツイートをリツイートしたユーザー群の方が、最新 100 ツイートに含まれるリツイートの平均値が高くなる. 2 標本 T 検定の結果、日本人ユーザー群とデマツイートをリツイートしたユーザー群の最新 100 ツイートに含まれるリツイートの平均値に有意差が確認できる.

5. 進捗状況

TwitterAPI を用いて日本人ユーザー 50 人をランダムサンプリングした. また,3 つのデマツイートからそれぞれ 50 人のリツイートユーザーを取得した.日本人ユーザー 50 人の平均リツイート数は20.04 人となり,デマツイート1の50 人の平均リツイート数は56.68 人,デマツイート2の50 人の平均リツイート数は62.64 人,デマツイート3の50 人の平均リツイート数は58.46 人となった.デマツイート1と日本人ユーザーの2標本T検定を行った結果,有意差が確認できた.デマツイート2と日本人ユーザーの2標本T検定を行った結果,有意差が確認できた.デマツイート3と日本人ユーザーの2標本T検定を行った結果,有意差が確認できた.デマツイート3と日本人ユーザーの2標本T検定を行った結果,有意差が確認できた.

6. 今後の計画

データ量が少ないのでデータ量をさらに増やすために新しいデマツイートを発見する.

参考文献

- [1] Social Media Lab. 2017 年 7 月更新! 11 のソーシャルメディア最新動向データまとめ. https://gaiax-socialmedialab.jp/post-30833/(2017.09.09 閲覧).
- [2] ITmedia NEWS. 「熊本地震でライオン逃走」twitter にデマ拡散の男を逮捕. http://www.itmedia.co.jp/news/articles/1607/21/news087.html(2017.09.09 閲覧).